

<p>かわら版</p> <p>(夏号 NO 3) 2012/07/01 発行</p> <p>年二回発行(1・7月)</p>	<p>下関市立大学落語研究会 OB 会発行</p> <p>電子版の扱いですので購読のためにはメールアドレスが必要となります。</p> <p>編集長 西川 隆喜</p>
<p>みちのくの人に^そ寄り^は添ひ思ひ馳せ</p> <p>やみよ まごころ 闇夜照らせよ真心の月 (NO3,986)</p>	



(2012/03/11 陸前高田の希望の一本松)



(2012/05/28 福島原発 4 号機を高台から)

【下関市立大学、開学 50 周年を祝う】

山口県の下関市立大学で 26 日、開学 50 周年の記念式典があった。教職員や卒業生ら約 150 人が出席。これまでの歩みを振り返りつつ、今後の展望を見据えた。

1956 年に下関商業短期大学が設立され、62 年に 4 年生の市立大学がスタートした。76～92 年に学長を務めた木下悦二さんは「下関の市民、財界の

支援で発展できた。若者が大都市に集中する時代に、全国から若者が集まってくれるのは下関の活性源だ」と振り返った。

中国・青島から出席した青島市人民政府の劉志勇さんは95～96年に市立大に留学した。「忘れられない思い出だ。青島の同窓会は下関で学んだ知識を生かし、友好交流のために活躍している」と話した。

27日は20のクラブの活動風景が卒業生や市民に公開されるほか、歴代卒業生が在学時の思い出を語るパネルディスカッションがある。



(5月28日: 朝日デジタル記事より)

※木下悦二(元学長)さんは和歌山県出身で大阪商科大学(現大阪市立大学)の卒業、九州大学経済学部長を務められ方で、本学では自著の貿易論入門(有斐閣出版)をテキストとして授業をしておられました。
(編集局長記憶より)

【開学50周年祝典に参加して】

母校市大は1962年に4年制へ移行してからこの春でまる50年となりました。これを記念した「下関市立大学4年制移行50周年記念事業」が5月26日(土)～27(日)に大学で開催されましたが、元落研特別顧問ジョン・ルーク・オマリ一先生(快樂亭ホワイ特)が『思い出の講義』と題し講演されました。

日本初の外国人見習い落語家?として落研3期・笑仲(森長武)、晋平(松尾晋)を追い出した1976年1月の「第3回追い出し寄席」で高座に上り英語で小

嘶を演じたお話しなどを交えながら、1967年から76年までの9年間の市大講師時代の懐かしい思い出話を披露されました。先生のあの包容力のある優しいお顔と巨体に会場は和やかな雰囲気になりました。

先生は今年2月で来日55年を迎え、7月には満81歳となります。下関在住は1965年から78年までの13年間ですが、下関および市大を今でもこよなく愛しておられます。

そこで、先生の誕生日である7月28日（土）に神戸（三宮）で、お祝いパーティーを開催しようという気運が高まり、関西在住OB中心に計画が進んでいます。当日には「米国人から見た日本・日本人」の題目による先生の講演、また、翌日には常設寄席「天満・天神繁昌亭」での寄席鑑賞会も予定されているそうです。既に関西はもとより、下関や私を含め東京からの参加者もいるとの便りも届いています。OBの皆様、是非ご参加願います！！

なお、参加できないOBのため神戸（三宮）懇親会の模様については、年明け発行予定の第4回かわら版でその詳細をお伝えする手はずになっています。皆様お楽しみに！！
（春好亭金艶：大塚秋夫 S49 卒）

【徒然草】

（その3:初めての大学祭）

アリスが来た!! 谷村新司がいた!! 堀内 孝雄もいた!! 感動した!!

馬関寄席の内容よりも、寄席文字のポスターを書いたり、木戸銭のチケットをガリ版で刷ったり、ハッピを着て呼び込みしたり（こんな恥ずかしことはなかった!）、武道場にいろいろ運びこんで高座をつくったり、一連の準備段階ではとてもワクワクしていたことをはっきり覚えている。

夏休みの合宿あたりから、ミーティングを重ね、部員の意欲を盛り上げて、みんなの考えの方向性を決めていった。だから準備段階から1つのことを造りあげることが楽しいと感じられたんだと思う。卒業してから社会人になったとき（自画自賛かもしれないが）あらためて、“落研”ってレベル高かったなあ

と思った。

35歳のとき 今の仕事を始めた。 4年間落研で活動したことが役にたっていることを実感した。大学時代は呆れるほど繰り返し繰り返し話し合いをしても、何故みんなの意識や意見をまとめようとしていたのか解らなかった。(今思えば、私自身が何も考えてなかったのか?)

模擬店・・・自分たちで焼き鳥を食べて 酒を飲んで 売って 利益を上げて はしゃいで笑って楽しんで・・・これが大学生なのね！こんな自由が許される！大学生は優遇されてる！この時はじめて大学生っていいな~と思った。

一方、私には模擬店は実にきつかった。今は温暖化で11月でもコートなしで過ごせるが、40年前頃は、11月ともなれば夜には木枯らしが吹いて凍そうだった。私は“店”に出ることはない。常に武道場の前にあった水道で洗い物をただひたすらする係。寒い中 カゴいっぱいになった汚れたコップを運び、洗ったコップをカゴに入れて階段を往復する・・・その繰り返し。冷たい水道水でコップを洗いながら、冷え切った両手にそっと息を吹きかけ自分自身を見つめ直す。私はやはり裏方が向いている。こういう役回りが性にあってると自分を納得させていた。

この経験は後日、子どもの幼稚園や小学校のバザーで大いに役に立つことになる。他のお母さん方が嫌がるうどんの釜元は率先して手をあげたし、水仕事と力仕事も苦にならなかった。これって、なんだかウキウキするのは大学時代の落研の模擬店を味わったせいなの？

うち上げのすき焼き・・・部室に酒とビールを持ち込んですき焼きでうちあげ！私の人生であのときほどの美味しいすき焼きを食べたという実感を感じたことは終ぞない。学生時代とは妙に不思議な時代で、若さと仲間と共通の思いがあれば、いろいろなことが七色のオブラートがかかったようにキラキラと輝いてくる。とても上等とは言えないお肉であっても、メンバー一人一人の個性が食材や調味料となり、結果、美味しいすき焼きとなった。遠い昔の出来事ではあるが、まことに貴重な経験であった。

ところで、大学を卒業して40年も経てばほとんどのOBの頭には白いものが混じり、 体型も変わっている。ところが唯一不変のものがあることにはたと気づいた。それは「肉声」なのである。卒業後のOBの人生はさまざまなもの

であったと思う。ただ、電話であれ、実際にお会いしてお話すると「一人一人の肉声」だけは寸分変わらず、落研のプレハブの部室にタイムスリップしていざなってくれるのである。

日本人の平均寿命も近い将来は100歳を超えるか知れない。ということは、50歳などはまだまだ「くちばしの青いヒョッコ!」ということか? この分だと70・80歳いや100歳になってもOB会でワイワイガヤガヤ騒いでいるかもしれないですね! そんなことを考えていると、歳を重ねることの楽しみを発見できる。しかし、「ゲゲゲの鬼太郎」の登場人物のような妖怪の懇親会が開かれると思うといささか恐ろしや! 恐ろしや!

では、また次回。お会いいたしましょう。(花見亭たゆう: 千葉里美 S53 卒)

【琉球からこんにちは!!】

ハイサイ、めんそーれ!

昭和54年度卒業生 小楽狂です。

なぜ小楽狂か?

同郷の広島県福山(実は鞆の浦に近い郡部)出身で下関市立大学落語研究会創始者の一人細井さんと言われる伝説の方が楽狂と言う芸名であったがため・・・

笑仲(当時4回生)朗志・好志(同3回生)の偉大な先輩諸氏より、入部のため部室を訪ねたところ、ほぼ瞬間的(一発芸のように)に命名されたものです。

私は現在、会社の密命?により愛する妻子を和泉国泉州(大阪)に残し現在は、単身、尖閣諸島の領有権問題?普天間基地移転問題?米軍基地の問題?等を解決すべく名峰富士と駿河湾を後に、2010年1月より日本国の防人として本土復帰40年の現在も米軍基地が集中する離島の地、沖縄に流刑、いや、日々国防のため頑張っております。

* 大学卒業後、広島県福山市に本社を置く福山通運に在籍し、目下、イオングループの店舗配送業務を行うセンターに勤務しておりますが、いつ何時何処に指名がかかるか不安な日々を過ごしております。

* 沖縄においては、伝統文化といえば、やはり何といっても琉球民謡・琉球

＊ 家族は私と嫁・娘二人の４人です。福山で一人暮らしの年老いた母親のことが気になっており、もちろん転勤があれば本社のある福山がありがたいです。

OBの皆さま!!来沖の節には、一声おかけいただき持参金をお持ち願えば、健全・不健全な観光地をご満足いただけるだけ、喜んでご案内・お世話させていただきます。
(春好亭小楽狂：松田忠義 S54 卒)



(沖縄/福山通運(株)正面より⇒あれあれ! 小楽狂がシーサーになってしまった?)

【かけ橋(市大落研情報)】

- ①会長が国際商学科３年生の坪井俊輔君(岡山芳泉高校出身)に代わりました。
- ②今春、落研は１０人を超える多くの卒業生があり、新入生が３人でしたので新

年度は、総勢 14 名で寄席その他の活動を行っています。

③5 月 27 日に専修大学校友会下関支部主催の『桂小文治の落語会』が、^{しゅん}春

^{ばんろう}帆楼（外相・陸奥宗光が、清国講和全権・李鴻章と下関条約を調印し、日清戦争が終結した場所、現在は、天皇陛下をはじめ多くの要人がお泊まりになる立派な割烹旅館）で開催され、その前座を務めました。

④福岡教育大学とは、お互いの寄席見物を通じての交流が続いています。古くは(36 年前)、市大落研は落語を愛する仲間を近くは北九州、遠くは長崎・熊本までも求めた。そして優れた人達が様々な大学に学部、性別、学年を問わず無数に存在していることに気付いた。そして、生涯の知人・友人・伴侶までもを発掘し、豊かな人生を歩んでいる OB たちもいる。 まことにありがたいことである。

⑤現在の大学は前期の授業が 7 月末頃までであり、その後テスト期間となり、終われば 9 月 20 日頃まで夏季休暇となる。また、大部分の学生は授業とアルバイトの両立をしながら学生生活を送っているそうだ。（編集局電話取材による）



（下関春帆楼を関門海峡から）

【編集後記】

電力各社の株主総会が全国各地で一斉に行われた。とりわけ、国有化となった東京電力と大飯原発再稼働が認められた関西電力の総会は、いずれも筆頭株主の地公体や個人株主の多くが参加し、参加人数・総会時間とも最大・最長を記録した。5時間半が長いか短いかは別にして、多くの個人株主が賛否に関わらず「日本のエネルギー」について注目したことには大いに意義があったと思う。

また、関西電力大飯原発3、4号機の再稼働を2日後に控えた6月29日夕、東京・永田町の首相官邸前で毎週金曜日に行われている再稼働への抗議行動が一気に拡大し、官邸前から霞が関への車道が人で埋め尽くされた。警察の機動隊も出動した。ツイッターやフェイスブックでの呼びかけなどで集まった人々は組織化されておらず、デモ行進はなし。官邸前でひたすら「再稼働反対」と叫ぶのが特徴だ。なぜ、これほど多く集まるのか。そのうねりは、大阪・熊本はじめ全国に広がっている。更に特筆すべきことは、機動隊員も歩道にあふれ出た市民を守っているように思えてならない。かつての機動隊員の姿とは一線を画している。

戦後、防衛は文民統制で行うとした政治家や官僚たちが福島県民 200 万人に放射能をまき散らした。そして危機管理が甘かったと認めた。国民を救ったのは戦後肩身の狭い思いをしてきた全国の自衛官や消防員であった。

また、日本社会ではよく言われていることだが、良きにつけ悪きにつけ「段階の世代」には個々の「夢」や「欲望」は強いが、「志」のある人は極めて少ない。現在の為政者や企業経営者や学者など考えれば「なるほど」と思い当たる節があると思う。そして、彼ら彼女らの子ども達が「モンスターペアレント」となったこともよく知られている。この世代の人達が物事の判断を「損得」ではなく「善悪」で判断してもらえることを強く希望する。

最後に少し明るい話をしておこう！ 今年には日本最古の歴史書「古事記」が編纂されてから、1300年を迎える。日本列島の成り立ちと国造りが語られ、国譲り、天孫降臨を経て、神武天皇誕生までの日本の「神話」が漢字で記されている。その物語を江戸時代に入り本居宣長の研究により「古事記伝」として多くの人が読むことができるようにまとめられた。宣長は『古事記』の註釈を

する中で古代人の生き方考え方の中に連綿と流れる精神性、即ち『道』の存在に気付き、この『道』を指し示すことにより日本の神代を尊ぶ国学として確立させた。そして、幕末から開国に至る日本において、攘夷であれ尊王であれ開国であれ多くの武士の行動を支えるバイブルとなった。いわば日本人による日本人のための哲学書であった。

幕末に黒船でやってきて、開国を迫ったペリー。高圧的な外交で知られ、アジアの野蛮な無知で礼儀も知らない黄色人種といった偏見をもって来日したが、その後、日本滞留を終え、帰国した後に、1956 年のアメリカ地理・統計協会での「日本でのキリスト教宣教の可能性について記した」論文の一部を読者の皆さんにお伝えして編集後記としたい。

「かれら日本人は、多くの点で洗練され、道理をわきまえた人々であり、この点で、かれらの隣人である中国人よりも、ほとんどすべての重要な点に関して、優れた資質を持つ人々であることから、信仰に関しても中国人より容易に胸を開くと思われる。」

「事実、私は、世界のどの地域においても、ヨーロッパですら、日本人のように気取りのない優雅さと威厳を持つ人々に出会ったことがなく、ことに身分の高い人々の物腰はみごとであった。」



(本居宣長記念館：本居宣長六十一歳自画自賛像)